

「へんちくりん学校」7月開設へ 1年間のプログラム編成



雑木林の中で笑顔を見せる子どもたち
＝長崎市田手原町の雑木林（2015年10月撮影、豊田代表理事提供）

竹林で遊ぼう！

長崎市で竹林整備や自然体験活動を手掛けるNPO法人「環境保全教育研究所」は、子どもたちが竹林や山でさまざまな遊びに取り組み約1年間のプログラム「へんちくりん学校」を7月に開設する準備を進めている。

研究所は子どもから大人まで気軽に自然体験ができる場をつくりたいと豊田菜々子代表理事らが2010年に設立。タケノコ掘りや門松作りなどのイベントを随時開いていたが、参加者から「また来たい」との声が相次いだため、1年間の継続プログラム編成を決めた。

「学校」は長崎市田手原町の竹林を中心に開設。未就学児と小学生向けのコースをそれぞれ設ける。

月に計4回程度開く予定。未就学児は山歩きから始め、小学生はそうめん流し台の組み立てや竹炭焼きなどに挑戦する。

豊田代表理事は「最初は『できない』『怖い』と言う子どもでも、いざやってみると楽しんでる。自分でも知らない力を発見してほしい。保護者も童心に戻って子どもの成長を見守れる場にしたい」と話した。5月から生徒を募集する。

（嘉村友里恵）

子ども対象 NPO法人が準備

長崎市内の児童養護施設で、学習支援ボランティアを務めている「子どもの好奇心を育み伸ばしたい」と穏やかに語る。

大学卒業後の2009年度から3年、地元の熊本県で小学校教諭を務めるクラスも担当。管理職を含め、さまざまな大人が子どもや家庭と関わる仕組みがあり、児童は悩みに応じて相談できる相手を見つけ、再び

明治日本の産業革命遺産
世界遺産認定証を展示
複製品、市役所ロビーに



「明治日本の産業革命遺産認定証」

長崎市は3月31日、市役所本館1階ロビーで、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が政府に交付した「明治日本の産業革命遺産（本県など8県の23施設）の世界文化遺産登録認定証（複製品）の展示を始めた。5月末まで。

認定証は英文で「人類共通の利益のために保護されるべき文化遺産の顕著な普遍的価値を証明する」と書かれ、ユネスコのイリナ・